

文化女大家政 ○香川幸子 盛田真千子  
共立女大家政 井手真理 小林茂雄

目的：近年、下着の着用には軽装化が進んでいるが、下着に対する意識についてもおしゃれ感など変化がみられる。特に、このような下着に対する意識は年齢により相違すると思われる。本報では女子大学生と母親の二世代について、下着の着用意識の世代間の特徴を考察する。

調査及び解析方法：調査対象者及び調査時期は、前報の「女子大学生と母親の下着の着用実態について」と同様である。調査内容は下着の着用意識（機能性、経済性、習慣、デザインなど28項目）、及びパーソナリティ（同調性、情報欲求、自己顕示欲、好奇心）に関するものである。調査データはカイ二乗検定及び因子分析法を適用して解析した。

結果：因子分析（固有値1.0以上、バリマックス回転）により、女子大学生及び母親とも、10個の基本的因子が抽出された（累積寄与率は女子大学生61.5%、母親61.7%）。両世代とも下着は女性らしさを感じさせるが、下着の軽装化は時代の流れのなかで当然であるとし、T. P. Oに応じた使い分けを考えている。母親は下着の機能面を重視する傾向があり、体型補正を求めるが締め付けない、清楚なものを嗜好する。しかし、女子大学生は母親より下着着用の習慣形成において母親の影響をうけてはいるが自己顕示欲、好奇心は強い。下着のデザイン面では多様化がみられ、自由で個性的な下着の選択を望んでいる。また、高級な下着をつけ気分を高めたいとする反面、通信販売による安価な下着の利用に対する積極的姿勢もみられ、下着の着用意識においても世代間に差が生じている。